



状況だ。

また、急激な人口増加で洪水被害を受けやすい地域に市街地が形成されているケースも多い。さらに、雨水排水設備の整備が遅れているために、雨期には衛生状況がさらに悪化し、深刻な問題になっている。

同国は2025年に向けたマスタープランを2000年に策定して09

年に公布し、都市開発に取り組んでいる一方、世界銀行の支援を受けつつ雨水・排水プロジェクトを進めているが、同マスタープランが現状を反映しなくなっている。また、主要な社会経済インフラの整備計画との整合性が十分に確保されていないのも大きな課題だ。

今回の協力では、策定から時間が経過した都市計画マスタープラ

ンを社会インフラの現状を踏まえて改定し、モデル地区で詳細都市計画を策定するとともに、最優先プロジェクトに対する概略フィージビリティ調査を行う。また、それと併せて、都市計画マスタープラン推進のためのアクションプランを策定し、計画推進を支える都市計画関連機関の能力強化を支援する。



受注しました!

## ウクライナで下水処理場を改修

2013年11月に発生した反政府デモ以降、激動の渦中にあるウクライナだが、住民の暮らしを支える生活インフラの整備は今も変わらず重要な課題だ。今回は、2014年9月に「ボルトニッチ下水処理場改修事業計画策定支援【有償勘定技術支援】」を受注した日本水工設計(株)の担当者に、案件の特徴などを聞いた。

ウクライナの首都キエフにあるボルトニッチ下水処理場は、同市の人口約280万人の生活を支える唯一の下水処理施設ですが、建設からすでに約50年が経過し、設備が老朽化しているため、日常的に多くの問題が発生しています。特に、濃縮した汚泥を溜める中間処理施設は、これ以上使い続けると崩壊事故を起こす危険性もあるほどで、各種設備の改修は待たなしの状態です。

こうした状況を受け、同国政府は円借款による支援を日本に要請。これに応え、国際協力機構(JICA)は2013年、まず同下水処理場の現状を把握するための調査を実施しました。この結果を踏まえ、今回の協力では日本の省エネ技



ボルトニッチ下水処理場の全景

術を生かした下水処理設備の導入に向け詳細な調査を行い、2015年3月までの予定で円借款案件形成に向けた事業計画を策定します。

実は、日本でも近年、多くの都市で老朽化した上下水道インフラの改修が必要となっています。日本水工設計(株)は、こうした国内のニーズに数多く取り組んできた実績を有しており、私自身も、国内では神奈川県などで上下水道に関する調査や設計などに携わってきました。加えて、私はベトナムやインドなど新興国の下水道整備にも関わった経験もあり、こうした中で培った技術やノウハウを、今回の案件でも生かせると考えています。なお、当社は2013年に実施された調査も担当したため、今回の協力では、この時に形成した現地の人脈を生かし、作業体制を円滑に整えることができました。特に優秀な若手人材を獲得できたことは、調査の効率化や迅速化に大いに役立っています。

この下水処理場には、設備について隔から隔まで知り尽くした“生き字引”のような技術者が多くおり、現場で発生するさまざまな問題に対して、強い責任感を持って対処しています。また、事務関係のスタッフたちも、一刻も早い改修に向けて精力的に取り組んでいます。彼らの意見を柔軟に取り入れながら、良い事業計画を策定できるように力を尽くすつもりです。

東欧諸国のように、過去にインフラが一通り整備された国々では、現在、そうしたインフラの老朽化が大きな問題となりつつあります。われわれとしては、特に専門である水分野のインフラについて、これらの国々にどう貢献していけばよいか、今後も知恵を絞っていきたいと思います。



日本水工設計(株) 海外部  
まれもり  
野尻 希守さん